

第4章 カリキュラム評価

1

学校評価および生徒質問紙調査によるカリキュラム評価

太田 聡

本論の趣旨

本校の教育課程を、生徒および保護者がどのようにとらえているのか、平成28年(2016年)11月に実施した全校生徒・保護者質問紙調査に基づく学校評価においてカリキュラムに関する項目を考察した結果、必修教科と総合的な学習の時間の双方で、探究的な学習活動に取り組んでいると実感している生徒が多い傾向が見られた。

また、本校のカリキュラム全般についてさらに詳しく検証するため、平成28年4月に3年生徒を対象に実施した全国学力・学習状況調査の結果を考察すると、目標や課題、考えや事実などを明確にした協働的で探究的な学習活動を通して、生徒の学習への主体性や各教科での基礎的能力は高まる傾向が見られた。また、考えの説明や文章での表現など、論理的・創造的思考力を促す授業改善を行うことで、学習への意欲や充実感が高まる傾向が見られた。

キーワード 学校評価、質問紙調査、生徒、保護者、カリキュラム

1. 学校評価

(1) 学校評価について

学校評価は、教員のみが行う従来の評価ではなく、保護者および生徒による質問紙の回答を教員が分析し、その資料を学校評議員会、PTA総会に提示し、助言を得て、今後の学校運営や教育を充実させることに資するものである。また、集計結果を保護者・生徒に、学校通信等で公表する。以上のような学校評価を平成18年(2006年)度から11年間継続し、毎年11月に実施している。

(2) 質問紙の内容と実施方法

① 質問紙の内容

質問紙は、生徒・保護者を対象に、「強くそう思う」「そう思う」「あまり思わない」「思わない」の4段階の質問項目のほか、自由記述欄を設けている。項目は、以下の3つのコンセプトで設定した。

ア. 保護者質問紙と生徒質問紙の関連性を持たせる

保護者が回答する内容と、生徒が回答する内容に関連性を持たせ、保護者の思いと生徒の思いを一緒に考察できるようにした。

イ. 教員組織と関連させる

本校教員は、教務部、研究部、生活指導部のグループ(企画部)のいずれかに属する。加えて、副校長と主幹教諭で評価、研修などを行う校務部を成している。

目標と成果、課題と対策について、企画部ごとに話し合うため、学校評価と従来の教員のみが行う教員評価の質問項目を企画部ごとにまとめるようにした。

ウ. 単年度の評価にしない

年次ごとの変容を調査することができるように、数年間に渡り、おもな質問項目は同じ内容にした。

② 実施方法

保護者質問紙・生徒質問紙ともに、質問と回答が連

続するように、A4版の紙に26の質問項目をマークシート形式で印刷している。保護者質問紙は、回答が生徒の目に触れないように別に茶封筒を配付し、一週間以上の回答期間を設けるようにした。

③ 集計処理

集計は、富士通社製シートフィードスキャナ(Scan snap)とコンピュータを用いて行った。質問紙はシートフィードスキャナの機能が向上しているため、再生普通紙を使用した。自動集計ソフトを活用することによって、短時間で集計処理を行うことができた。

④ 質問紙の内容

質問紙の26の質問項目のうち、研究部に関連した学習活動に関する6項目を次表に示す。

(3) 調査方法、回答人数

無記名の質問形式とした。回答のあった保護者は327人および、欠席・無効を除く生徒330人であった。

(4) 集計結果とグラフ

校内の教職員向けには、年次変化、年度変化、学年別に帯グラフで示し、考察する機会を毎年度設けている。本報告では本校研究に関連の深いと考えられる、学習活動に関する質問項目①～⑥のみをグラフ1に示す。

(5) 分析結果

質問紙の結果では、質問項目①～⑥ともに保護者の本校学習活動への大きな期待が明らかになった。一方、生徒の質問紙からは、必修教科と総合的な学習の双方で学力の高まりを実感していることが明らかになった。

2. 全国学力・学習状況調査

〔生徒質問紙〕

(1) 質問紙の内容

質問紙の85の質問項目のうち、学習活動に関する8

項目のみグラフ2に示す。

(2) 回答人数

欠席をのぞく3年生徒116人であった。

(3) 集計結果とグラフ

本報告では学習活動に関連する質問項目を本校と全国データを比較して示す。

(4) 分析結果

グラフ2の質問紙の結果では、「授業では、生徒の間で話し合う活動をよく行っている」、「生徒の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」と答えた生徒の割合が高く、「学校の授業などで、自分の考えを他の人に説明したり、文章を書いたりすることは難しい」と答えた生徒の割合が比較的少なく、生徒自身が説明や表現をする学習活動を、日常的に盛り込んだ授業改善が促進されていることがうかがえる。

また、「総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる」、「授業では、学級やグル

ープの中で自分たちで課題を立てて、その解決に向けて情報を集め、話し合いながら整理して、発表するなどの学習活動に取り組んでいる」、「授業で扱うノートには、学習の目標(めあて・ねらい)とまとめを書いていた」と答えた生徒の割合が高く、目標や課題を明確にし、課題の解決に向けて探究的に学習に取り組んでいることがうかがえる。

グラフ3の本校解答率分布の比較から、学力の低位層が少ないことや、基礎・基本を身に付けさせつつ、活用力も継続して育成できていることが読み取れる。

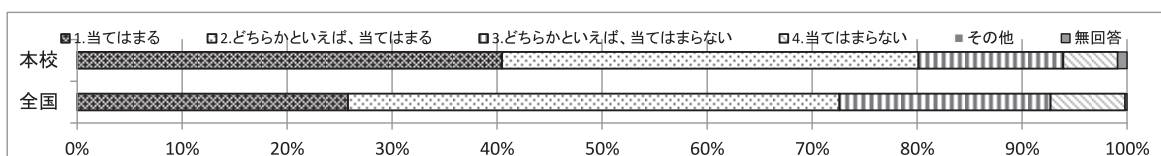
グラフ4のB問題解答率において、本校平均は全体的に高く、無解答率は低い傾向にある。本校生徒は、日常的に情報を読み取り、解釈し、説明や発表をすることができており、回答に対する積極性がうかがえる。

これらの結果から、目標や課題を明確にし、互いの考えや事実をもとに、協働的に取り組む探究的な学習活動は、生徒の学習への主体性を高め、教科の基礎的能力、論理的・創造的思考力を高める傾向があると考えられる。

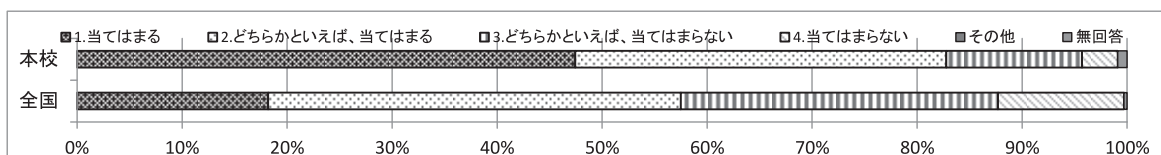


グラフ1 学校評価〔生徒・保護者質問紙〕

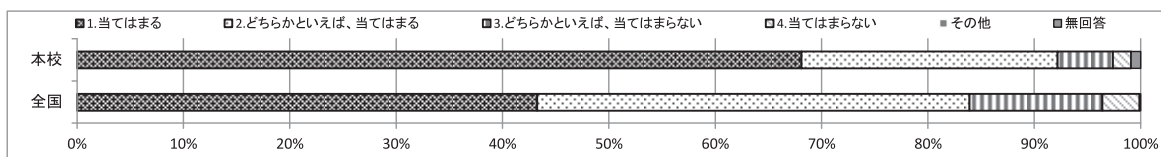
(45)「総合的な学習の時間」の授業で学習したことは、普段の生活や社会に出たときに役に立つと思いますか



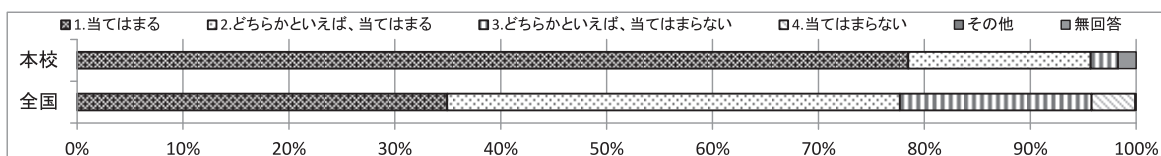
(46)「総合的な学習の時間」では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか



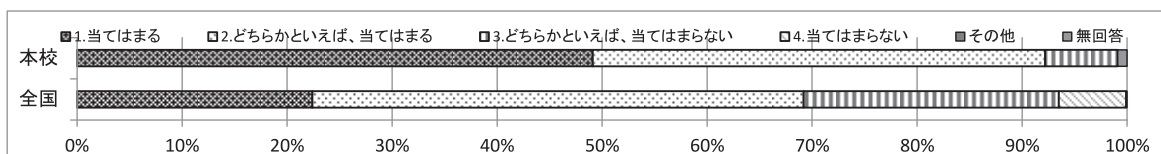
(48) 1, 2年生の時に受けた授業では、自分の考えを発表する機会が与えられていたと思いますか



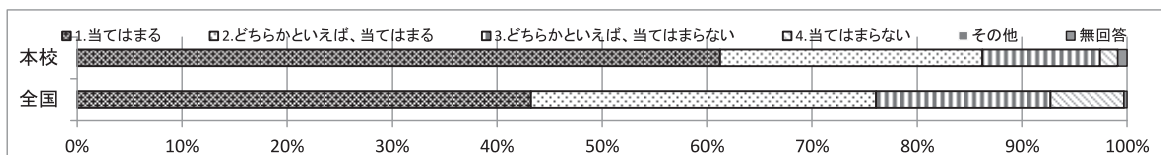
(49) 1, 2年生のときに受けた授業では、生徒の間に話し合う活動をよく行っていたと思いますか



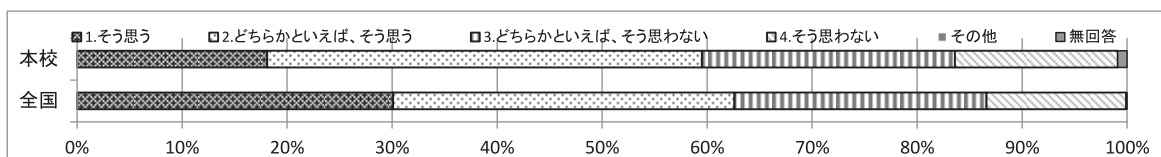
(50) 1, 2年生のときに受けた授業では、学級やグループの中で自分たちで課題を立てて、その解決に向けて情報を集め、話し合いながら整理して、発表するなどの学習活動に取り組んでいたと思いますか



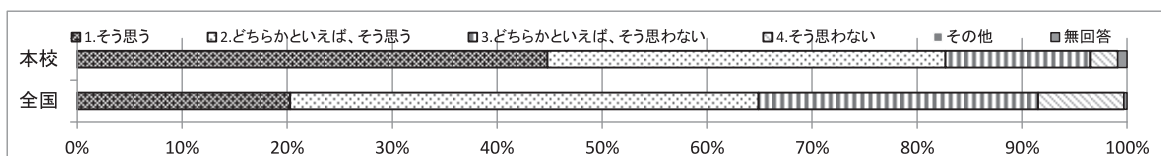
(55) 1, 2年生のときに受けた授業で扱うノートには、学習の目標(めあて・ねらい)とまとめを書いていたと思いますか



(58) 学校の授業などで、自分の考えを他の人に説明したり、文章に書いたりすることは難しいと思いますか



(59) 生徒の間に話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか



グラフ2 全国学力・学習状況調査 [生徒質問紙]

